

「生きて在ることの静かな明るさ
—第29回萩原朔太郎賞受賞者 岸田将幸展」を開催

1 受賞作と見どころ

岸田さんは、第6詩集『風の領分』(書肆子午線)で第29回萩原朔太郎賞を受賞。受賞作は主に、2016年に故郷の愛媛に帰った後に書かれている。受賞コメントに「生活を現代詩の文脈において、また現代詩を生活の文脈において、どうしても肯定しなければならなかった」とあり、これまでの作品を紹介し、詩人としての「現代詩」への業績や表現活動を紹介します。

2 作家プロフィール

1979年愛媛県生まれ。詩人、文芸批評。早稲田大学第一文学部卒業。日本経済新聞社文化部記者を経て、現在は愛媛にて農業を営む。

詩集は、『生まれないために』(七月堂)、『死期盲』(思潮社)、『丘の陰に取り残された馬の群れ』(ふらんす堂)のほか、2010年第40回高見順賞を受賞した『〈孤絶-角〉』(思潮社)。また、2015年には『亀裂のオントロジー』(思潮社)で第6回鮎川信夫賞を受賞した。評論集に『詩の地面 詩の空』(五柳書院)。共著に『吉本隆明論集』(アーツアンドクラフツ)、『半島論』(響文社)などがある。

3 展示内容

岸田さんの現在までの生き立ちを振り返りつつ、著作(詩集、評論集、連載中の新聞など)や、影響を受けた物品や作品などの資料展示を行い、さらにターニングポイントである帰郷前後の表現について掘り下げる。

展示作品数 約50点

4 公開日時・会場

- (1) 日時 2月5日(土)～5月8日(日)まで、9時～17時(入場は16時30分)
- (2) 会場 前橋文学館 2階展示室 (千代田町三丁目12-10)
- (3) 観覧料 一般400円(高校生以下、障害者手帳持参の方と介護者1名は無料)

5 記念イベント

- (1) 3月5日(土) 岸田将幸『風の領分』を読む
- (2) 4月30日(土) 鼎談「詩、からだ、未来」

※コロナ感染状況により内容変更の可能性があります。詳しくは前橋文学館ホームページをご覧ください。

担当：文化国際課文学館

電話：027-235-8011